

『講左衛門さん、今日はかぐや姫の話をしてくれるでまっすん。わくわくするでまっすん。』

『昔、昔の話じゃ。駿河国新風土記という、静岡県に伝わる古文書に、かぐや姫と忍草について書かれておるんじゃ。難しい文章じゃが、古文書をそのまま紹介しようかのう。』



クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん..

「富士麓の三山と云、足高山、足機山、足柄山、是をふもと三山と云・・・此時其の勅使の来ることをしりて親にいとまごいをして富士山麓の山に居す。初に隠れたまう所を忍草と云、夫より裾野亥の方山居して機織りたまう、故に足機山と云。是後には富士の南の山にかくれ翁鷹を愛す、故に愛鷹権現を祭る。姥は富士東山に居す、姥は狗を愛す故に足柄山と云い、後に足柄の神と祭る、・・・」(駿河国新風土記より)

『ここに書かれていることを簡単に説明すると、「始めに竹取物語」求婚話が展開する。桓武天皇の求婚を受けて、勅使の田村麻呂が翁の家を訪ねる。「(かぐや姫は)この時、その勅使の来ることを知りて親にいとまごいして、富士麓の山に居す。初めに、隠れたもう所を忍草という・・・翁鷹を愛す。ゆえに愛鷹権現と祀る。姥は狗を愛す。後に足柄の神と祀る・・・」(原文)と書かれておるんじゃ。忍草の浅間神社(旧・忍草朝日浅間宮)には、国指定文化財の三神像が祀られておる。真中には、かぐや姫・左に鷹飼(たかがい)・右に狗飼(いぬかい)が祀られておるんじゃ。富士山麓には、多くの浅間神社があるんじゃが、三体の神像が一緒にお祀りされているのは、忍草だけなんじゃよ。富士山と深〜い関わりがあるんじゃよ。』

『そっそんな昔から、富士山と忍草に歴史があるなんて・・・すっすごい話でまっすん。だけど、人々にあまり知られていない話でまっすん。なぜ、知られていないでまっすん。』

『昭和40年代ごろまでは、言伝えなどの口伝と呼ばれる話が、伝わればいい時代もあったんじゃ。しかし、人の口と言うのは、正しく伝わらないことも多いんじゃ。昭和50年代に入ると、各都道府県の教育委員会が、古文書を読み解いたり、発掘したりして資料を編纂(へんさん)しておるんじゃよ。忍野村においては、古文書や発掘調査が遅れてしまったんじゃな。教育委員会が調査して編纂しなければ、世の中で認めてもらえないんじゃ。うわさに聞くと、忍野村教育会で古文書の調査が入っておるようじゃ。富士山と忍野村、また、修験との関わりが解き明かされるといいんじゃが・・・富士山とご神体について、研究している学者さんには、忍草の浅間神社にある三神像は、特別な意味を持つんじゃな。知る人ぞ知る、特別な神像なんじゃよ。』

『多くの人々に、忍草にお祀りされている特別なご神像の話伝えて行きたいでまっすん。』

『そうじゃな。次回も、かぐや姫の話をするでしょう。』

『楽しみにしているでまっすん。』



ふじのだいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達